

科目名	倫理学概論Ⅰ		担当教員	小井沼 広嗣	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SPE204
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	この授業の到達目標は、近現代社会の基礎をなす基本的な道德原理を学ぶと共に、倫理的な諸問題について自ら考察し判断をくだす能力を習得することにあります。よって、以下の3点をテーマに定めます。 (1) 西洋哲学における主要な倫理学説を適切に説明できるだけの知識を習得する。 (2) 倫理的な諸問題についてその是非を多角的な視点から考察する能力を身に付ける。 (3) 自分の道德的判断の理由を他の人びとに納得できる仕方で見表できるようにする。				
授業の概要	私たちは他の人びととともに社会を形成して生きています。そうである以上、「～はよい」「～はわるい」「～すべきだ」「～すべきでない」といった価値規範を一定程度、他の人びとと共有しなければなりません。それではある価値規範の正しさや誤りをどのように判断すればよいのでしょうか？倫理学とはまさしく、諸々の価値規範を妥当たらしめる理由・根拠を探究する学問だといえます。この授業では、西洋倫学史における主要な学説を学ぶと共に、人間の道德性の本質や、現代社会における倫理的な諸問題について、みずから考え判断をくだす能力を習得することを狙いとします。				

授業計画	
第1回	「イントロダクション」：授業の導入として《倫理・道德とは何であり、倫理学は何を問題とするのか？》について概説する。
第2回	「ディスカッション 道德の根拠と存在理由を考える」：そもそも私たちはなぜ道德的であるべきなのだろうか？《ギュゲスの指輪》という寓話、ならびに《なぜ人を殺してはいけないのか？》という問いを題材にして、道德の根拠と存在理由について検討、議論する。
第3回	「道德の根拠と存在理由を考える」：前回の議論を踏まえつつ、道德の根拠や道德と幸福との関係性をめぐる哲学者たちの思想を紹介・検討する。
第4回	「どんな文化規範も尊重されるべきか？」：《どんな文化規範も尊重されるべきか？》という問いを出発点として、文化的相対主義をめぐる問題を検討する。
第5回	「規範倫理学(1) 義務論」：今日の規範倫理学の主要な学説のひとつである義務論について学び、その有効性と問題点を検討する。
第6回	「規範倫理学(2) 功利主義」：今日の規範倫理学の主要な学説のひとつである功利主義について学び、その有効性と問題点を検討する。
第7回	「規範倫理学(3) 徳倫理学」：今日の規範倫理学の主要な学説のひとつである徳倫理学について学び、その有効性と問題点を検討する。
第8回	「規範倫理学の応用 生命倫理に即して」：生命倫理に関わる問題に即して、義務論・功利主義・徳倫理学がそれぞれどのような議論を展開しているのかを見ていく。
第9回	「死刑制度」：死刑制度の是非をめぐるこれまでの議論状況について学び、個々の主張の妥当性について検討する。
第10回	「善行の義務」：困っている人を助けることは義務なのか？利他的行為（善行）をなすべき根拠について検討する。
第11回	「善行の動機」：私たちはなぜ道德的な行いをしようとするのか？利他的行為（善行）をなすさいの私たちの動機について検討する。
第12回	「個人の自由」：個人の自由にどこまで制限・介入を加えるべきなのか？他者危害原則とパターンリズムについて学び、その妥当性を検討する。
第13回	「戦争と倫理」：国同士が争い、人と人が殺しあう戦争において、どのような道德規範が要求されるのか？戦争倫理の概要について学び、その有効性を検討する。
第14回	「動物と倫理」：動物にも権利を認めるべきなのか？動物の道德的地位をめぐる現代の議論について学び、その妥当性を検討する。
第15回	「レポート発表」：少人数のグループに分かれ、期末レポートを発表しあう。

事前学修	2時間	次の授業内容に関連した事前課題を出すので、それを行ったうえで授業に臨んでください。
事後学修	2時間	授業後には毎回、授業感想課題を出します（クラスプロフィールより提出）。配布資料をもとに復習し、自分なりに考えたことや疑問点などを授業感想課題に書いてください。また、理解が不十分な点やより詳しく知りたい論点については授業内で紹介した参考文献を読んでみてください。
フィードバックの方法	提出してもらった授業感想課題については翌週の授業でフィードバックを行います。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	
レポート	42%	問題設定、論述展開、説得力、文章表現などを踏まえて評価する
上記以外の試験・平常点評価	58%	授業感想課題、事前課題の提出
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』古牧徳生・次田憲和訳、晃洋書房、2003年 児玉聡『実践・倫理学—現代の問題をかんがえるために』勁草書房、2020年 それ以外の参考文献については授業内で適宜紹介します。			

科目名	倫理学概論Ⅱ		担当教員	安部 日珠沙	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2SPE405
期待される学修成果	教科教育 自己形成				
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	<p>(1) 倫理学に関する基礎的・基本的な知識について適切に説明することができるようになる。</p> <p>(2) 様々な倫理的課題を、自らが生きる上での問題として吟味し、自分なりの規範を提起することができるようになる。</p> <p>(3) 様々な倫理的課題に関する自分の意見を、根拠を明確にししながら、自らの言葉で適切に表現したり論理的に説明したりすることができるようになる。</p>				
授業の概要	<p>倫理学は、社会において他の人々とより善く生きていくための価値規範の妥当性を、一人一人が当事者意識をもって探究する学問である。重要なのは、人間がより善く、より正しく生きる上での自らの価値規範を持つことであり、倫理学を机上の空論におとしめず、実践にまで高めていくことである。本授業では、現代を生きる私たちに深い関わりを持ちうるテーマを取り上げ、ディスカッション等を通じて、そのために必要な倫理的事柄に対する考察と理解の深化を目指す。</p>				

授業計画	
第1回	ガイダンス：本授業の進め方の説明
第2回	宗教と倫理
第3回	ギュゲスの指輪 (1) プラトン『国家』における思考実験
第4回	ギュゲスの指輪 (2) ディスカッション
第5回	ギュゲスの指輪 (3) 発表・質疑応答
第6回	嘘をつくこと (1) ディスカッション
第7回	嘘をつくこと (2) 発表・質疑応答
第8回	環境倫理学 (1) ディスカッション
第9回	環境倫理学 (2) 発表・質疑応答
第10回	生命倫理学 (1) ディスカッション
第11回	生命倫理学 (2) 発表・質疑応答
第12回	そもそも善とは何か？ (1) G.E.ムーアのメタ倫理学
第13回	そもそも善とは何か？ (2) ディスカッション
第14回	そもそも善とは何か？ (3) 発表・質疑応答
第15回	まとめ：振り返りと自分の意見の明確化

事前学修	2時間	自分の意見を吟味し、他の学生に積極的に表明したり、活発にディスカッションしたりするために、授業テーマ（キーワード）について、文献やインターネット等を用いて調べたり、授業に持ち込む資料を収集したりしておく。
事後学修	2時間	ディスカッション、発表、質疑応答などを通じて得られた知識や見解などを踏まえ、授業テーマに関する自身の意見や考えをブラッシュアップする。
フィードバックの方法	<p>(1) リアクションペーパーを通じて寄せられた意見や質問等については、次回の授業開始時に回答・説明を行う。</p> <p>(2) 第15回目の授業課題については、羽島教務課を通じて返却を行う（詳細は後日連絡）。</p>	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	
上記以外の試験・平常点評価	100%	追加補足事項に記入。

補足事項	(1) 授業への参加態度等 (15点)、発言および他者の意見への傾聴などディスカッション・発表・質疑応答への積極性 (60点)、選択テーマに関する論述 (25点)。 (2) 毎回リアクションペーパーを配布するので、授業内容に関する疑問・意見・感想等を記して提出すること。リアクションペーパーの内容については、次回の授業で適宜コメントする (出席票として扱うため、未提出の場合は欠席扱いとする)。
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	必要に応じて授業内で適宜紹介する。			